



# 七里小だより

8・9月号

さいたま市立七里小学校  
令和5年8月29日

さいたま市立七里小学校  
校長 保坂 泰司

長かった夏休みも終わり、本日より令和5年度 第2学期が始まりました。七里っ子たちは、よい感じに日焼けをしており、十分夏休みを満喫したようです。どの子ども、笑顔で登校し、教職員一同安心しました。子どもたちがいる学校は、やはり、とてもよいものです。この雰囲気大切に、子どもたちのよりよい成長のために教職員一同頑張っています。どうぞ、今学期も本校の教育活動にご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。そこで、早速、何人かの子どもに「夏休みの思い出」について聞いてみたので、以下に紹介します。

## 【夏休みの思い出】

- 夏休みに、川にキャンプに行きました。岩場から川へジャンプしたり泳いだりして楽しみました。また、自然の壮大さに感動しました。(6年)
- 夏休みは、バスケの練習をがんばりました。そのおかげで、上手になりました。しかし、生活リズムがグダグダになってしまったので、2学期は、早寝早起き、規則正しい生活で勉強や運動をがんばります。(4年)
- 親戚のみなんで、BBQをしました。お肉やお野菜をたくさん食べました。そして、デザートとしてマシュマロを焼きました。いい思い出になりました。2学期も頑張ります。(2年)

さて、今月は行事がたくさんあります。5年生の「自然の教室」や来月初めに行われる「運動会」などです。すべての行事には、それを通して達成すべき「めあて」があります。いかにして、その「めあて」を子ども自身が自分の中に落とし込み、その達成に向けて仲間と協力しながら努力していこうとする態度がもてるかが重要になってきます。すべての子どもたちに、その態度をもたせ「めあて」を達成できるようにするために、我々職員による声掛けはもちろんのこと、全力で行事に取り組むことができるための、子どもたちにとって安心・安全な環境の確保や子どもたちと職員の互いの信頼関係を強固なものにしていく必要があります。そのような中で、子どもたちには思いっきりそれぞれの行事に取り組み、多くを学びながら一歩ずつ立派な七里っ子に成長して欲しいと望みます。

24日(木)に RaiBoC Hall (レイボックホール) で、「令和5年度いじめ防止シンポジウム」が開催されました。当日は、本校の代表児童も参加しました。シンポジウムでは、いじめを未然に防ぐために、日頃から使っていこうと「心を元気にする4つの言葉」(①大丈夫 ②ちょっとずつでいいよ ③自分を信じて ④また明日)が紹介されました。「心を潤す4つの言葉」と一緒に、これらの言葉が溢れる七里地区、七里小学校にしていきます。また、さいたま市の教育委員である武川さんから、「Resilience 最後まで諦めず、続ける力」と題した講演がありました。武川さん自身、今でも「世界的なアーティストになる」という目標を追い続けているとのことでした。敢えて「夢」とは言わずに「目標」と言うのには、「必ず成し遂げる」という意味合いが「目標」の中にあるからだとのことでした。七里っ子にも、自分を振り返り、足りないものを自覚して、それを克服するという目標に向かっていけるよう引き続き職員一同、声掛けをしていきます。そして、目標を克服した際の、達成感や成就感を大いに味わわせていきます。

最後に、夏季休業中に、お子様のことで気になったことや心配なことがございましたら、いつでも連絡をください。